



家族でノエル（クリスマス）

## 「ひととせ」 N. Tさん（2011年-2012年 フランス）

私がフランスを選んだ理由は多くあるが、一番大きかったのはやはりフランスの文化へのあこがれや興味が大きかったと思う。この期待に答え、裏切り、そして新しい発見をさせてくれた1年はとても貴重だった。

思い返せば辛いこともあった。学校や友達も私を特別に“留学生”扱いをしてくれることはあまりなく、おしゃべり好きで自分の意見をはっきりと持っているフランス人に気圧されることも多々あった。上手く言葉が使えず、置いてきぼりになっていた私は“どうしてこの人たちは…”という考えに陥っており、あまり人と話さずに無心で日々を過ごしていた。そのとき家族や友達から、“言わないとわからないよ。”といわれ、確かに塞ぎ込んでいたのは自分だと実感した。自分自身もこの状況から抜け出したいと思っていた。それからは自分の考えを出すようにしてみた。簡単なことではなかったが、それが私とフランス人の間にあった大きな溝であると思い、私は少しでも彼らに近づいてみたくて、努力をした。すると言葉も上達し、友達も増えて一日一日が惜しいほど生活が楽しくなってきた。もちろん毎日新しいことだらけで奮闘もしていた。しかし結果的に見て“留学生”として扱われないことで、ある意味、私はフランス人に近づけたと思う。

ホストファミリーはとても陽気な人たちで、私を暖かく迎えてくれた。日々の生活に加えて季節の行事など共に過ごした時間はとても楽しかった。お祝い事が好きで、クリスマスも盛大だった。前々から献立を考え、イヴは朝から食事の支度をし、夜中まで家族で話しながら食事を楽しむ。クリスマス当日はプレゼントの交換会だった。家族全員で子どものように笑いあっていた。

他にもたくさんの思い出があるが、おそらく私が留学しなければ絶対に経験することのなかったであろうことばかりだった。

もうすぐフランスから帰ってきて一年がたつ。のんびりとした一年から日本のあわただしい学生生活に戻り、ふとフランスに帰りたいたいと思うときがある。フランスは外国ではなく、私の中では第二の家のように感じられようになった。

今となってはフランスだけでなく、他の国はどのような文化なのだろうか、世界にはどのような場所があるのだろうかと興味を抱くようになった。出発前に比べると世界がぐっと身近に感じられる。

美味しい食事、美しい景観、伝統ある文化、そして明るいホストファミリーや友達に囲まれた一年を過ごせたことに、私はとても感謝している。かかわったすべての人に感謝を伝えたい。



LYON に旅行